

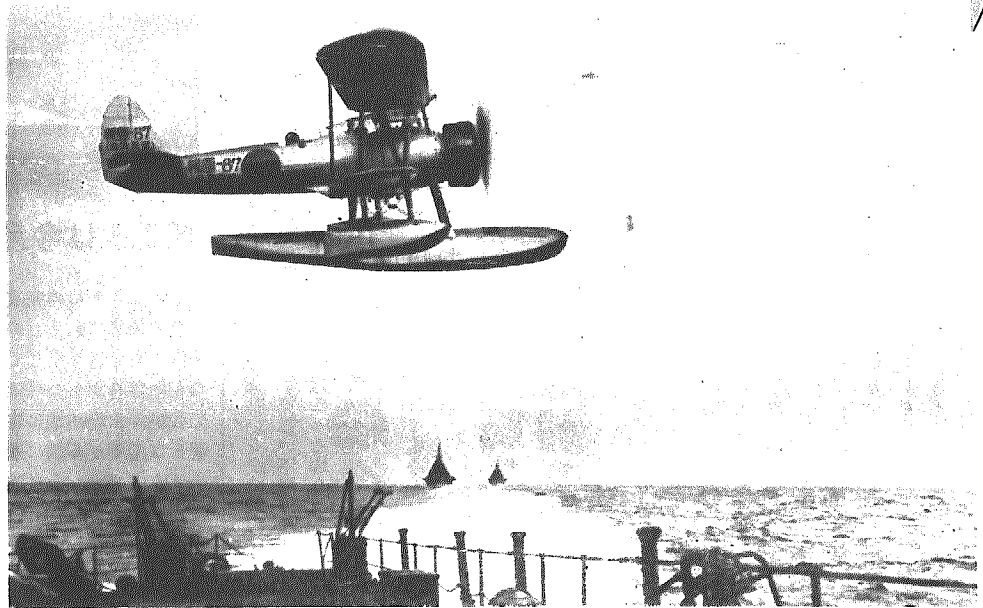
広報いわむろ秘蔵写真館 ■ 24 ■

写真は語る
献納機「西蒲原号」

1枚の古びた写真が明らかにする思いがけない歴史(記録)の一コマ。みなさんの秘蔵写真を紙上公開します。お手元にあるとっておきの1枚を広報いわむろにお送りください。

●応募先＝〒953-01 岩室村大字西中860 岩室村役場 総務課 企画係
☎82-4111 内線201・202・215

▶西蒲原郡在郷軍人会の会員を中心に郡内各戸から寄付を募って献納したこの報国第87号西蒲原号の命名式は、昭和11年7月19日に銚潟の弁天島で行われた。



〔写真〕橋本・五十嵐政蔵さん所蔵

昭和11年7月19日、銚潟の弁天島で、西蒲原郡在郷軍人会連合会(長沼権一会長)の会員らを中心に、郡内各戸から寄付金を募って献納した「報国第87号西蒲原号」の命名式が行われました。この写真は、海上偵察の任務についた西蒲原号の勇姿を納めたもので、当時、村内の役員として寄付や募金にあたった御礼としていただいたものです。写真撮った場所や年代は不明ですが、外洋で撮られたものらしく西蒲原号後方には2隻の戦艦のシルエットがはっきり写っています。ところで、命名式当

日は銚潟湖畔には何万人もの観衆が集まり、それは、それは大変なにぎわいでした。郡都の巻町には命名式奉祝門が立てられたり、『西蒲原号献納式祝賀歌』といったものまで作られました。今なら、さしずめ郡全体を抱括した大イベントでしょうね。時代が時代ですから当然といえば当然なのでしょうが、もうひとつ、献納先の海軍側から本県出身の山本五十六中将(航空本部長)や井上成美少将(横須賀鎮守府参謀長)といった人たちが出席したというのも一因だったようです。(五十嵐政蔵)

善意をありがとう

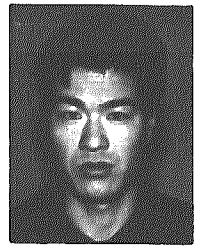
- 間瀬七区の海雲寺住職・高山卓尔さんから寒念仏浄財として一万円のご寄付がありました。
- 和納六区の山田泰範さん(16歳)、稔さん(10歳)、麻子さん(9歳)の三人の兄妹(山田鉄蔵さん方)から金九百五十七円のご寄付がありました。
- 和納三区の松本栄さんから「母カツさん」のご冥福を祈られ金五万円のご寄付がありました。
- 橋本の藤田光男さんから「母ミヨイさん」のご冥福を祈られ金十万円のご寄付がありました。
- 岩室の松岳寺住職・上村大心さんから寒念仏浄財として金一万円のご寄付がありました。

確定申告は
お早目に
昭和61年分の所得税の確定申告と納税の期限は3月16日までです。期限間近になると税務署の相談会場は大変混みますのでお早めにどうぞ。確定申告についてのご相談は税務務署(☎2355)へ。

木村一浩さんの訪米レポート



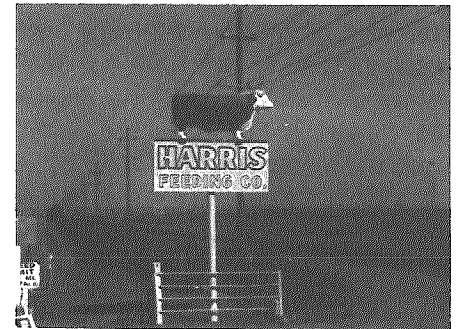
報道でしか見ることがなかった
アメリカ農業の実態を知ることが
できた。この「体験」をもとに
これからの農業経営に生かしたい



木村一浩さん
(原・26歳)

農産物市場の開放を求めているアメリカ合衆国の農業経営や農業政策をじかに見聞きして、21世紀の新潟県農業を担う若い農業者(農業後継者、農協青年部リーダーら30人)の国際的視野を広げ、これからの農業経営の発展につなげよう――と毎年、県農協中央会などが主催している「アメリカ農業実習」に本村から原の木村一浩さん(26歳)が参加しました。研修はサンフランシスコやロサンゼルスを中心に昨年10月19日から26日までの8日間行われました。今月は、木村さんのアメリカ農業レポートをご紹介します。

カリフォルニアの農耕地面積は、約3,400万エーカー(約1,360万ヘクタール)で新潟県の全面積の10倍強の大きさ。それでも全米の耕地面積の3%しかありません。しかし、果樹、ナッツ類(クルミ、アーモンド、ピスタチオなど)は、全米の半数近くの生産量をあげています。また、カリフォルニア米は、上位20品目の16位にランクされています(1985年)。



牧場の案内看板(ハリーズ牧場で)

今まで、テレビや新聞などの報道でしか見たことのないアメリカ農業の姿と違った面を見ることができ感激しています。注目のカリフォルニア米は、生産量の大半を東南アジア方面に輸出して伸びてきましたが、最近、これらの国々も米の自給率が高まってきたため、輸出量が減少しはじめ、これによるアメリカ国内価格の暴落などで、農家も大きな苦境にたたされています。

ところで、アメリカは自然や立地条件の良い州でも4月から10月までの乾期には、全くといってよほど雨が降らず、砂漠化しています。そして、雨期に入ってから200ミリから250ミリ程度の降雨量しかなく、水の確保には大変苦労しているといわれています。

しかし、これらの苦境にも負けず、効率の良い作物の栽培や低コストの米づくりの技術開発などに真剣に取り組んでいます。この研修を終え、報道でしか知ることができなかったアメリカ農業の真の姿を、自分の目、耳、足で、じかに感じ取ることが出来ました。ここで得た貴重な体験を、恵まれた状況にある本県農業に、そして私の農業経営の中に生かし、自己の発展、地域農業の発展に努力していきたいと考えています。

作物の栽培には、水は必要不可欠のものであり、水利事業が市町村・郡・州・国単位で行われ、大平原に大きな運河が数多く通っています。カリフォルニア米は、水源地に最も近いサクラメント平原で全体の85%の生産が行われ、残りの15%は1930年代に連邦政府が作った運河から安い水を得られる地区だけで栽培されています(水源地に近いほど水利費が安く、遠い地域は、土地はあっても水利費が高くなる分、米作が困難ということです)。

